

## COFFEE MAKER

Patent number: JP60171018  
Publication date: 1985-09-04  
Inventor: HORUSUTO BUIRUHERUMU ATSUKAAMA; PETORU  
MASETSUKE; JIYAN SURUBOU  
Applicant: NESTLE SA  
Classification:  
- international: A47J31/06  
- european:  
Application number: JP19850009984 19850124  
Priority number(s): CH19840000363 19840126

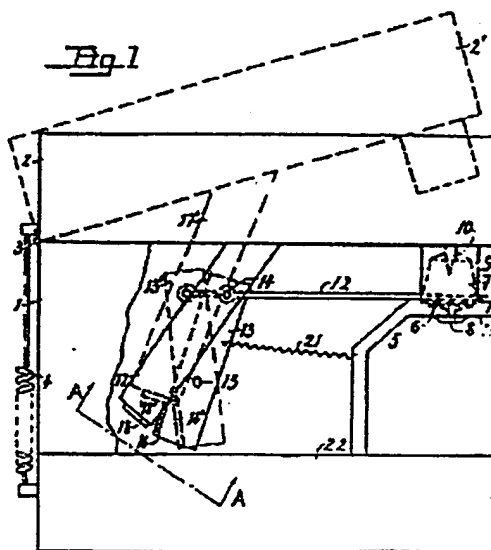
Also published as:

EP0151252 (A1)  
CH655234 (A5)

Abstract not available for JP60171018

Abstract of correspondent: EP0151252

Coffee machine using coffee cartridges enclosed in a two-part container, one integral with a fixed body and the other with a movable lid, comprising an ejection device actuated by opening the cartridge container.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

SALTON-061815

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報(A) 昭60-171018

⑫ Int.Cl.<sup>4</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)9月4日

A 47 J 31/06

8412-4B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 コーヒーづくり機械

⑮ 特 願 昭60-9984

⑯ 出 願 昭60(1985)1月24日

優先権主張 ⑰ 1984年1月26日 ⑱ スイス(CH) ⑲ 363/84-3

⑳ 発 明 者 ホルスト ヴイルヘル スイス国オルブ, シュマン デ ラ ダム 15  
ム アツカーマン

㉑ 発 明 者 ベトル マセツク スイス国イベルドン, リュ グントルモン 24

㉒ 発 明 者 ジャン スルボウ スイス国サビグニイ, フルム デ ラ カルボラツズ  
(香地なし)

㉓ 出 願 人 ソシエテ デ プロデ スイス国ブレイ, ビー. オー. ボックス 353  
ユイ ネツスル ソシ  
エテ アノニム

㉔ 代 理 人 弁理士 茂 村 皓 外2名

明 細 書

1 発明の名称

コーヒーづくり機械

2 特許請求の範囲

(1) 一部分が基部によつて支えられる支えの上に  
そしてもう一つの部分が動くことのできるカバー  
の上に備えられた、二つの部分の間の中に保持  
される、コーヒーを含むカートリッジを使用する  
コーヒーづくり機械にして、それは、前記間を  
開くことによつて作動する前記カートリッジの放  
出機構を包含する、ことを特徴とするコーヒーづ  
くり機械。

(2) 特許請求の範囲第1項記載の機械において、  
前記支えは、カートリッジを保持して中心に置く  
ためのくぼみを有し、そして前記カバーは、前記  
カートリッジに穴をあけてその中に水を注入する  
ためのポンプを含む室を有する、ことを特徴とす  
るコーヒーづくり機械。

(3) 特許請求の範囲第2項記載の機械において、  
前記カートリッジの底を部分的に囲むることの

できる留め金は、ピボットを経て、前記基部の上  
に回転するレバーの一端に接続され、前記レバ  
ーの他端はタブに終わり、そして前記カバーに取り  
付けられた駒は、前記タブと協働するようにされ  
た掛け金を備えている、ことを特徴とするコーヒ  
ーづくり機械。

3 発明の詳細な説明

イ. 産業上の利用分野

本発明は、特許日本特許出願第151612/  
77号および第56425/84号に記載された  
形式のコーヒーカートリッジに使用するようにな  
された、コーヒーづくり機械にかかわる。

ロ. 作用

本発明による機械は、二つの主要部分、すなわ  
ちカートリッジの支えを取り付けた基部と、カ  
ートリッジを囲む室すなわち囲いをつくるために支  
えと協働するカバーから成っている。支えとカバ  
ーは互いについて動くことができ、それによつて  
カートリッジを囲む室は開閉される。機械は、カ  
ートリッジを保持する室を開くことによつて作動

する放出機構を含むことを特徴としている。

ハ、実施例

添付図面は、一例として本発明の一実施例を示す。

図示のように、機械は蓋部1と、丁番3の回りに動くことのできるカバー2を含んでいる。戻しばね4はカバーを持ち上げを容易ならしめる。

機械は、水ポンプと水を加熱する装置を含み、それらは本発明の好ましい実施例では、蓋部でなくカバーの中に置かれている。

蓋部1に取り付けられた支え5は、コーヒーカートリッジ7を受けて中心に置くためのくぼみ6を有している。口8は、カートリッジから流れるコーヒーのために備えられている。実施例で示す作動位置で、カートリッジ7はカバー2から垂下する室9の中に固く保持され、そして従来の固定機構(図示せず)によって定所に保持されている。ポンテ10は、カートリッジに穴をあけてその中に水を注入するため室の中に備えられている。引き出し22は蓋部の中に備えられている。

カートリッジの室を開くことによつて作動する放出機構は、次のように作動する。

カートリッジ7の底を部分的に囲む留め金11は、支え5の上を水平に滑ることができる。留め金は、それをピボット14を経てレバー13に接続する軸12に取り付けられている。レバー13自体は、蓋部1に取り付けられた軸15の回りに回転する。ピボット14と反対の端で、レバー13はタブ16に接合されている。レバー13はばね21によつて戻される。

さらに、カバー2に取り付けられた軸17は、カバーから通いその端に、戻しばね20(第2図)によつて止め19に向かって偏倚される掛け金18を備えている。

作動について述べると、開いた位置、すなわちカバー2が破線で示す2'の位置にあり、留め金11が実施例で示す位置にある位置に始まつて、コーヒーカートリッジ7はくぼみ6の中に置かれる。カバーは次いで下げられて実施例で示す位置に固定され、それによつてカートリッジのへりをつかん

で、くぼみ6と室9によつてつくられるカートリッジの囲いを固く閉ざす。同時に、ポンテ10はカートリッジの先端に穴をあけ、次いで水ポンプと加熱器が作動させられ、そして日本特許出願第151612/77号および第56425/84号に既に記載されているように、熱湯がポンテ10を通してカートリッジの中に注入される。コーヒーの浸出液は、口8を通つてあらかじめ下置かれたカップの中に流出する。

使用済みのカートリッジを取り替えるために、カバー2は持ち上げられてカートリッジの囲いを開く。同時に、掛け金18はレバー13のタブ16に当たつて、それを逆時計回りに回す。この運動はばね21を伸ばして軸12と留め金11を引くので、カートリッジ7は左へひつくり返される。使用済みのカートリッジは引き出し22の中に落ちる。

レバー13、タブ16、軸17、および掛け金18が破線で示すそれぞれ13'、16'、17'および18'の位置に来る瞬間、掛け金はタブの

端に達し、そしてはやそれを保持しない。戻しばね21は、レバー13を時計回りに回すようにして軸12を、留め金11とともに最初の位置に戻す。くぼみ6は、こうしてからになつていつでも新しいカートリッジを受けることができる。

カバー2が再び閉ざされると、掛け金18は回転してタブ16の上方を通り過ぎ、次いでばね20によつて、止め19に向かってその最初の位置に戻される。

この代わりに、室9とポンテ10が蓋部に取り付けられ、くぼみ6が動くことのできるカバーの中に備えられ、そして軸12がカートリッジの放出機構を作動させるようにしてもよい。この実施例では、ポンプと水加熱器は都合よく蓋部の中に置かれている。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明によるコーヒーづくり機械の、一部を断面で示す立面図、そして

第2図は、第1図の線A-Aから見た部分的な図である。

図面の符号1は「基部」、2は「動くことのできるカバー」、3は「丁香」、4・20・21は「ばね」、5は「支え」、6は「くぐり」、7は「コーヒーカートリップ」、8は「口」、9は「室」、10は「ボウテ」、11は「留め金」、12は「棒」、13は「レバー」、14は「ピボット」、15は「軸」、16は「タブ」、17は「脚」、18は「掛け金」、19は「止め」、22は「引き出し」を示す。

代理人 浅 村 皓

